校長通信　～ 夢拓く ～　第７号　　　　　　　　　福島市立野田中学校 2021.5.14

わきまえる

先週の金曜日、５月７日に避難訓練（ひなんくんれん）が行われました。全校生徒が校庭に避難しました。４月６日に新学期がスタートしてから初めて全校生徒が集合する場となりました。生徒の皆さんの様子を見ていましたが、「これならば大丈夫」という思いをもつことができました。安心しました。皆さんは、「わきまえる」ことを知っている人たちだとわかりました。

わきまえるには、次の意味があります。物事（ものごと）の違いを見分ける。区別（くべつ）する。物事の道理（どうり）をよく知っている。心得ている。これらの中でいうと、「心得ている」が一番合っているかもしれません。簡単にいうと、「ここでは、ちゃんとやらなければならない」ということがわかっているということです。「場をわきまえる」「礼儀（れいぎ）をわきまえる」などといったりします。

避難訓練は、命に関わることです。皆さんの様子から、命に関わることだから、ちゃんとやらなければ、考えなければという姿勢（しせい）や態度（たいど）を見ることができました。

全校生徒が一つの所に集まると、いろいろなことがわかります。見えてきます。普段（ふだん）の様子もわかります。校庭に整列した皆さんの様子から、普段の皆さんの努力がうかがえました。

今週から新型コロナウイルス感染症対策のレベルが変わりました。今までやってきたことをさらに徹底（てってい）していかなければなりません。学習活動や部活動を行う上での制限（せいげん）が増えました。給食のときにも気を使わなければなりません。

期間は、５月３１日（月）までとなっていますが、状況（じょうきょう）がよくならなければ、さらに延長（えんちょう）となる可能性（かのうせい）もあります。一人一人が自分のこととして考えることが、今は求められています。

制限が増えれば増えるほど、窮屈（きゅうくつ）に感じられるかもしれません。しかし、今は「わきまえる」ときです。６月には、大事な大事な福島支部中体連、県北地区中体連の大会も控えています。

練習試合はできませんが、今まで以上に感染防止に努めながら、限られた時間の中での部活動を充実（じゅうじつ）させていくときです。どの部活動も、３年生を中心に、同じ方向を向いてまとまるときです。

人は、何かあったほうがまとまることができるものです。向かい風が吹いているならば、みんなでまとまって向かっていくしかありません。そうすることで、強さが身につきます。

皆さんには、特別な強さを手に入れるチャンスが与えられたのかもしれません。チャンスをものにできるかどうか、そのポイントは「わきまえる」にあります。